

人文学部プロジェクト活動

人文学部は、以下のプロジェクトに戦略的経費（研究プロジェクト助成）を配分しています（右は代表者名）。

刊行物助成

英語と英米文学	上田由紀子
独仏文学	武本雅嗣
山口地域社会研究	速水聖子
山口大学哲学研究会	横田蔵人

『英語と英米文学』

『英語と英米文学』は、山口大学人文学部・教育学部・経済学部・国際総合科学部・教育支援センターに所属する教員グループが、年1回刊行している学術研究誌である。メンバーは現在13名で、このうち人文学部教員は欧米言語文学コース所属の5名（岩部浩三、太田聡、上田由紀子、池園宏、外山健二）である。掲載内容は各メンバーの日頃の研究成果を反映した論文等で、その領域は英語学・英米文学・英語教育・英語圏文化など多岐に及んでいる。1965年に創刊された本誌は半世紀以上に及ぶ歴史があり、今年度で第55号の刊行を迎えた。最新号の掲載内容は以下の通りである。

1. Ditransitive Constructions in Japanese
(Yukiko UEDA : 人文学部)
2. A Cross-Cultural Study of English Translations of Kajii Motojirō's Short Stories
(Olha KATERYNA : 教育支援センター)
3. Review of Laurie Bauer, *Compounds and Compounding*
(Satoshi OHTA : 人文学部)

なお、人文学部から配分された戦略的経費（研究プロジェクト助成）は、今年度の刊行・発送

に要する費用の一部として有効に活用されている。また、本誌の電子版は山口大学学術機関リポジトリYUNOCAにより学内外に広く公表されている。これらの支援を受け、『英語と英米文学』は今後も継続的に各研究者の活動成果の公表に寄与していく予定である。

（上田 由紀子）

『独仏文学』 第42号

『独仏文学』は、ドイツ語文化圏およびフランス語文化圏の文学や言語学をはじめ、文化、歴史、社会、美術など幅広い分野の研究論文を掲載する、山口大学独仏文学研究会が刊行する学術雑誌である。当雑誌では、投稿論文の質を確保するため、一昨年度の総会の決定に基づき査読制度が導入されている。編集委員会は今年度学外の研究者4名に審査を依頼した。第42号に掲載されるのは次の5本である。

1. 下寄正利：「ゲルマン語強変化動詞第1種の歴史的変遷（2）」
2. Franz HINTEREDER-EMDE : Natsume Sōseki, *Das Leben* (1896) — Einführung und Übersetzung
3. Masashi TAKEMOTO : Les structures cognitives

des constructions à datif lexical en français

4. Michel DE BOISSIEU : L'Allemagne en l'an 2000 : deux cinéastes évoquent les fantômes du passé

5. 末松壽 : 講義ノート『記憶なき人々』における忘却——セガレン、ポリネシア、文化変容——

(武本 雅嗣)

かし、研究活動を継続し、成果を発表する場としての学会活動を続けていくことの意義を、改めて再認識した貴重な研究例会となった。

今年度の研究例会の成果を踏まえて、年度末に学術雑誌『やまぐち地域社会研究』(第18号)を刊行する予定であり、現在、編集作業を進めているところである。

(速水 聖子)

山口地域社会研究

「山口地域社会研究」プロジェクトは山口地域社会学会の研究活動を中心としており、現在に至るまで、例年2回の研究例会の開催、ならびに年1回の学会誌『やまぐち地域社会研究』の発行を行っている。研究例会は、会員によるそれぞれの研究発表を毎回2～3本ずつ報告する形で行われ、活発な意見交換がなされている。人文学部の現教員は横田尚俊・速水聖子(現代社会学)、高橋征仁・桑畑洋一郎(社会心理学)、谷部真吾・小林宏至・山口睦(民俗学・文化人類学)の計7名で、社会学コースの全員を会員としている。

2020年は、コロナ問題の深刻化もあり、例年7月に行う第1回目の研究例会は見送りとした。コロナ対策を講じたうえで、今年度初となる第49回研究例会を11月21日(土)に開催することができた。「中山間地域の住民生活を支える互助ネットワーク—萩市木間地区の事例—」(山口大学大学院人文科学研究科 王子都)、「明治初期における求菩提山の売薬」(山口大学大学院東アジア研究科 相良悦子)、「山口県萩市見島における鬼揚子の色彩表現をめぐる」(山口大学 小林宏至)といったバラエティに富む3つの報告がなされ、フロアも交えて活発なディスカッションが行われた。

このような状況下において、実地での地域研究に必要な調査の実施がいつ可能になるのか、見通しも困難であり、研究者自身が今後の研究についても模索せざるをえない状況である。し

山口大学哲学研究会

山口大学哲学研究会は、山口大学に所属する哲学・思想系の教員を中心とする組織で、会誌の刊行、合評会、研究発表会などの活動を行っている。

現在、正会員(学内の常勤職員である会員)は11名で、そのうち人文学部の教員は、ジュマリ・アラム、柏木寧子、栗原剛、藤川哲、村上龍、横田蔵人、脇條靖弘の7名である。他学部の正会員は、佐野之人(教育学部)、山本勝也(経済学部)、小川仁志(国際総合科学部)、小山虎(時間学研究所)の4名である。また、名誉会員(過去に山口大学に所属したことのある学外の会員)は21名で、そのうち人文学部の元教員は、上野修、遠藤徹、加藤和哉、木村武史、周藤多紀、武宮諦、田中均、外山紀久子、林文孝、古荘真敬、頼住光子の11名である(名誉会員で人文学部元教員の奥津聖氏が2020年4月23日逝去された)。2020年度は、横田蔵人(人文学部)と佐野之人(教育学部)が運営委員を担当した。

本年度は、例年通り会誌『山口大学哲学研究』の刊行を続けた。2020年3月刊行の第27巻は、年度をまたいで会員諸氏・諸機関宛てに送付した。掲載論文等は、『葉隠』『聞書第一』第二項における死——「喧嘩打返」の理想形について(栗原剛)、「何故西田は『善の研究』において道徳から宗教への移行を語らなかつたのか(佐野之人)」、「ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展1999-2019とビエンナーレ化現象——図録序文の通時的読解——」(藤川哲)、「キャラクターの二

次創作活動（キャラ活）の宗教学的考察～（1）
概要編～」（ジュマリ・アラム）、「徳なき思慮は
ない——トマス、スコトゥス、アウレオリと実践
的判断」（横田蔵人）、「かくも大きく立派な地位
を感性にさずける心理学」（2）——晩期ベルク
ソンにおける「感性」概念」（村上龍）の六本お
よび研究ノート「Zaltaの基本的対象理論」（脇
條靖弘）一本である。刊行に際し、人文学部よ
り支給された「刊行物助成経費」を、印刷・製
本費用の一部にあてさせていただいた。また、
第28巻は2021年3月刊行の見込みであり、栗原
剛、佐野之人、末松壽、村上龍、藤川哲（掲載
予定順）の各氏による原稿の掲載が予定されて
いる。

（横田 蔵人）

山口大学人文学部異文化交流施設事業

交流部門事業

公開講演会

年度	開催日	講演者	国	所属機関	演題
令和2	2020.12.20	平野芳信	日本	山口大学名誉教授	村上春樹と架空の作家ハートフィールド

研究部門事業

研究プロジェクト

年度	プロジェクト	代表者
令和2	日本社会におけるアオ色をめぐる予備的研究	小林 宏至
	キャラクターの二次創作活動に見る「擬人化」と「記号化」の相克性に関する研究	アラム ジュマリ

山口大学人文学部 異文化交流・研究活動

交流部門交流事業

1. 海外渡航 (R1. 1 ~ R2. 12)

年	渡航者氏名	訪問先	期間	目的	費用の出所
令和2	馬 彪	中国	R1. 12. 27 ~ R2. 1. 8	王莽研究の文物・遺跡調査のため	科学研究費補助金

2. 科学研究費補助交付

交付年度	研究種目	課題番号	代表者	研究課題名
令和2	基盤研究(C)【延長】	16K02680	富平 美波	『続通志』「七音略」とその門法の研究
	基盤研究(C)【延長】	17K03209	村田 裕一	道具組成からみた弥生時代山陰地域における地域性成立と交流・鉄器化進行過程の研究
	基盤研究(C)【延長】	17K03271	山口 睦	活性化する贈与経済についての人類的研究
	若手研究(B)	17K13561	南雲 泰輔	後期ローマ帝国時代における世界認識の構造にかんする研究
	基盤研究(C)	17K04184	桑畑 洋一郎	HTLV-1関連疾患当事者の当事者運動に関する研究
	基盤研究(C)	18K00188	藤川 哲	日本と韓国における国際美術展のグランド・ツアー・インパクトをめぐる基礎的研究
	基盤研究(C)	18K00479	エムデ・フランツ	ジャンルの混交と共感覚—20世紀モデルネの文学・絵画の新たな受容
	基盤研究(C)	18K00576	上田 由紀子	日本手話における空項に関する統語研究
	基盤研究(C)	18K01035	竹中 幸史	フランス国旗・国歌の歴史学—基礎的研究
	基盤研究(C)	18K01963	高橋 征仁	被災者はなぜ罪悪感を抱くのか?—避難の困難さと社会的承認に関する実証的研究
	基盤研究(C)	18K02029	横田 尚俊	災害復興期における広域避難者・支援者間のネットワーク再編に関する研究
	国際共同研究強化(B)	18KK0009	乾 秀行	エチオピア諸語の記述とドキュメンテーション: ソーシャル・イノベーションにむけて
	基盤研究(C)	19K00372	根ヶ山 徹	徳山毛利家棲息堂文庫所蔵和刻本漢籍の書誌学的研究と分類目録の作成
	基盤研究(C)	19K00663	太田 聡	日英語対照による周辺の語形成過程の音韻的分析
	基盤研究(C)	19K00977	池田 勇太	幕末維新政治史と儒教—熊本実学党の研究—
	若手研究	19K13202	安本 真弓	日本語形容詞の構文と意味に関する史的研究
	若手研究	19K14064	伊東 達也	読書施設における「日本的底流」の存在に着目した近世教育と近代教育の連続性の研究
	基盤研究(C)	20K00100	栗原 剛	『葉隠』の武士道における忠誠の再検討—「誠実」をめぐる日本倫理思想史学的研究
	基盤研究(C)	20K00314	尾崎 千佳	連歌懐紙の書誌学的文献学的研究
	基盤研究(C)	20K00389	池園 宏	カズオ・イングロと音楽: 創作の原点を探る
	基盤研究(C)	20K00681	岩部 浩三	総称文研究における認知能力に基づいた枠組みの検証
	若手研究	20K13283	小林 宏至	現代漢族社会における親族組織とサイバー空間
	若手研究	20K13176	黒羽 亮太	文書の作成・活用・保存に着目した前近代朝廷儀礼の復原的研究
	挑戦的研究(萌芽)	20K20683	アラムジュマリ	キャラクターの実体化に見る「擬人化」と「記号化」の相克性に関する研究
	基盤研究(C)【延長】分担	17K02189	柏木 寧子	神仏共存神話の原理に関する倫理学的研究—日本思想の基軸の解明—

交付年度	研究種目	課題番号	代表者	研究課題名
	基盤研究(C)【延長】分担	17K02189	栗原 剛	神仏共存神話の原理に関する倫理学的研究—日本思想の基軸の解明—
	基盤研究(B)分担	19H01295	池田 勇太	「感情体制」と生きられた感情—エゴドキュメントに見る「近代性」
	基盤研究(B)分担	19H01395	山口 睦	「模する」技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究
	基盤研究(B)分担	19H01562	速水 聖子	過疎地域と地方都市間の関係分析による人口減少社会モデルの生活構造論的構築
	基盤研究(C)分担	19K02873	桑畑 洋一郎	大学院博士課程修了者のキャリア形成に関する調査研究
	基盤研究(A)分担	17H00834	田中 晋作	高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究
	基盤研究(B)分担	17H04561	速水 聖子	海外日本人社会における情報環境の変容とコミュニティの動態に関する比較社会学的研究
	基盤研究(B)分担	16H03427	太田 聡	隣接諸科学乗り入れ型的手法による音韻理論の外的・内的検証の研究
	基盤研究(B)分担	20H01589	桑畑 洋一郎	ハンセン病者の「生」と戦後日本社会—戦前・戦中との連続と断絶を視野に入れて
	基盤研究(B)分担	20H04412	高木 智見	大正期日本の中国研究と第一次世界大戦前後の世界——内藤文庫所蔵資料を中心に
	基盤研究(C)分担	20K00038	柏木 寧子	神・仏・天共存神話の原理に関する倫理学的研究—日本思想の基軸の解明—
	基盤研究(C)分担	20K00038	栗原 剛	神・仏・天共存神話の原理に関する倫理学的研究—日本思想の基軸の解明—
	基盤研究(C)分担	20K00960	黒羽 亮太	山口地域の銅生産・銅銭鑄造関係古代出土文字資料を用いた政治・社会的地域特質の解明
	基盤研究(C)分担	20K01098	村田 裕一	日韓弥生・古墳時代石硯・研石の再検討
	東アジア研究科			
	基盤研究(C)	20K00545	更科 慎一	近世中国語資料に見られる入声の研究
	基盤研究(C)基金	18K00157	森野 正弘	楽書『教訓抄』全注釈のための基盤形成